

留学報告書

野中玲央

イェール大学経済学部

December 26, 2025

1 英語について

8月にEnglish Learning Programに参加しました。これは経済学部に限らずPhD学生がTOEFLの点数が低い場合に参加するプログラムです。午前中はreading, discussion, vocabulary, pronunciationの4つを扱う授業があり、午後は課外活動でした。午前中の授業の中ではpronunciationの授業が楽しかったです。この授業では主に母音の解説とアクセントの解説を受けました。母音とアクセントはどの言語にも存在する要素だからこそ難しいことはよくわかっていたので、それを扱ってくれたのはとても有り難かったです。ただ私はまだ子音の部分が克服できていないのでまずは子音を頑張りたいです。破裂音の長さの調整がまだまだ必要で、特に単語の終わりのtの扱いをもう少し練習したいです。

English Learning Programでは英語を安心して練習できたのが楽しかったです。他の参加者のレベルが自分と同じくらいであるため、会話が詰まることにストレスを感じずに話せました。午後の課外活動では野球の試合を見に行く、New Yorkに行く、Outdoor Centerに行く、観劇をする、などの活動がありました。Outdoor Centerとはイェール大学が所有する公園のような敷地です (Figure 1)。Outdoor Centerに行った日はそこで1日中野放しにされ、他の参加者とキャックやバレーボールをして楽しみました。午後の課外活動では少しずつアメリカについて知ることができたのが良かったです。海外に初めて住む私にとってという経験をする上で非常に助けになりました。

ただ普段の英語はあんまり聞き取れていないです。リスニング問題として出されたら問題ないくらいの理解はしていると思いますが、授業の議論には全く参加できません。授業の前後の雑談もあまり理解できず、教授のジョー

クも雰囲気です。英語は1日に2時間程度は話しているはずなのですが、あんまり上達は感じないです。特に語彙の習得と発音矯正はたくさん話すだけでは効率が悪いと思います。そもそも1日2時間では不十分だと思います。日本にいるときと同様、家庭学習で自分ができていないところを集中的に練習していく習慣を続けていくべきだと感じました。研究をする身としては議論ができないことは致命的なのでこれから頑張りたいと思います。



Figure 1: Outdoor Center

2 授業について

9月以降はミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の授業を履修しました。東大の修士でも同じ科目を履修しましたが、計量経済学以外の授業内容は東大とかなり違う印象を受けました。全体的に言語による説明が多いのが大きな違いだと思います。ミクロ経済学については、幅広い内容を扱う一方で、各トピックはそこまで深く扱わない印象を受けました。東大に比べて証明や

定義が重視されず、モデルの立て方や解釈に重きが置かれていました。重要な定理の証明がまるまるスキップされたときは衝撃を受けました。証明を扱わない代わりに東大ではやらないようなファイナンスの話が聞けたのは個人的には面白かったです。ただ説明はテスト向きではなかったのでテスト対策には苦勞しました。

また、マクロ経済学の授業が面白く感じました。イェールの授業の方が言語による説明が多く、モデルが何をやりたいのか詳しく説明していたのが面白く感じた一因だと思います。ただこれは私が東大であまりマクロ経済学に注力してこなかったのももう一つの原因だと思います。東大修士の頃は、留学のためにミクロ経済学の授業で高順位を取ることを最優先にしており、マクロ経済学にあまり時間が取れていませんでした。今回は成績をそこまで気にせずマクロ経済学にも時間を割くことができ、とても楽しかったです。

3 普段の生活について

英語のキャンプで中国人の友達がたくさんできました (Figure 2)。その友達たちと毎日ジムに行っており、そこで英語も話せるし体も動かせるしストレス発散にもなるしということで毎日楽しく過ごしています。ジムだけでなくお昼ごはんや夜ご飯を一緒に食べることも多いです。日本人はイェールに数える程しかいないし、できれば他の国からの出身の人と英語で話したいので English Learning Program でできた友達たちには感謝しています。

日々の生活はこの中国人の友達たちにかなり依拠している部分があり、アメリカの文化というよりは中国の文化に触れてしまっています。中国には誕生日にその誕生日の人が人々をもてなすという文化があるみたいなのですが、日本人の先輩にそういう経緯があることを話したら「騙されてない？ ただ日本食奢ってもらいたいだけじゃない？」と言われたので笑いました。

中国の文化に限らず普段の文化交流はとても楽しく感じます。他の人が自分と違うというだけで面白いです。もちろん日本にいる時と比べて根本的な違いを感じることも多く、違いが根本的であればあるほど面白く感じます。これは外部評価を受ける楽しさと似ていて、自分を客観視できる項目が増えるのが楽しいです。



Figure 2: English Learning Program でできた友達たちが私の誕生日を祝ってくれたときの写真です。日本食は高いので全員分奢るのは不可能

4 日本とアメリカの違いについて

最後におよそ4ヶ月間アメリカで暮らした感想とアメリカに対する理解を整理しようと思います。

ここまで暮らして全体的にアメリカは乾いているという印象を持ちました。初めは空気が乾燥しているからかと思っていたのですが、主な要因は入ってくる情報の少なさにあると思います。人混みが少ない、広告などが目に入らないといったことから、東京と比べて入ってくる情報が明らかに少ないです。娯楽においても、試合を観に行く、自然の中を歩くといった、実際の体験に基づくものが中心で、情報過多になりにくいものになっていると思います (Figure 3)。人間関係のあり方も日本と比べるとあっさりしていると感じます。そのため必ずしも豊かな自然に囲まれているわけではないのですが、人工物や情報の密度が低いので自然をより強く感じられます。こうした情報の少なさは、できるだけ長時間勉強してできるだけ運動するという生活を送るのに有効だと思います。

東京に住んでいた頃は広告やアナウンス、人混みなどで情報過多になる中でも平静を保つように自然と訓練されていて、その訓練によってアメリカで自己主張がうまくできなっている気がします。自己主張をしないことは言語的能力が成長しないことにもつながっていて、言語を使ってうまく議論していく能力がまだ圧倒的に足りないと感じます。思ったことをその場で言語化し、議論によって問題を解決しようとすることは人間関係においても重要ですし、議論が研究活動の基礎であることは間違いのないため、早く文化に順応したいと思っています。

改めて、本留学を支援してくださっている船井情報科学振興財団のみなさまに感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。



Figure 3: 試合を見に行くという息抜き。ハーバードとの一戦なのですが中に赤い洋服を着てくるという大きなミスを行いました